



学校だより

2月号
横浜市立桜台小学校
令和4年1月31日発行

心の杖

副校長 早坂 考史

昨年末に一旦落ち着きかけた感染症の影響が第六波として猛威をふるっています。神奈川県にもまん延防止等重点措置が適用され、日に日に増える感染者数に脅威を感じざるを得ません。

桜台小学校でも、『子どもの安全・安心』を最優先に考え、1月25日（火）からの5日間、3学級を閉鎖しました。

また、登校できない間の教育活動として、全児童にタブレット端末を貸し出し、家庭学習の提示や学校で行われている隣のクラスの授業生配信、オンラインで各家庭からの映像をつないだ朝の会などへの活用を進めています。

感染症対策の歴史を紐解くと、日本の歴史上の第一人者に北里柴三郎氏がいます。2024年から導入予定の新千円札に肖像として使われる北里氏は、ペストや破傷風といった感染症医学の発展に貢献した人物です。北里氏の残した言葉の一つに「医師の使命は病気を予防することにある」というものがあります。私たち学校教職員は医師ではありませんが、子どもたちの安全・安心を守りたいという気持ちには共通したものがあります。だからこそ予防を意識し、日々の消毒活動やマスク・手洗い・うがいの徹底に取り組み、今回もこれ以上の感染を加速させないために学級閉鎖の判断をしました。

また北里氏は「細菌学者は、国民にとっての命の杖とならねばならない」という言葉も残しています。感染症対策に人生をささげ、多くの命を救おうと国民のことを第一に考えて尽力し続けた彼らしい深い言葉です。この精神は、教育にも通じるところがあると思います。コロナ禍の影響で行うことのできなかった活動、会えなかった友達との時間など、子どもたちが失ったものがたくさんあります。それを少しでも埋めるため、学校での教育活動を充実させていきたいのです。子どもたち一人ひとりの心の杖となる思い出をたくさん創っていきたいのです。まさに「教育者は、子どもたちにとって心の杖とならねばならない」です。そのためには、教える側も常にアンテナを張り、社会の変化に対応し、よりよい支援方法を模索し続ける必要があります。従来のはめた教育を行うのではなく、子どもたち自身や社会情勢の実態に合わせた教育を推進するよう、これからも取り組んでまいります。

最後になりますが、今後も感染症対策を引き続き行ってまいります。保護者の皆様にも、これまで通りお子さまの健康観察をしていただくとともに、体調不良（咳、喉の痛み、頭痛、発熱、腹痛、倦怠感等）が見られた場合は、無理をせず登校を控えていただき、必要に応じて受診していただきますようお願いいたします。

